

は し が き

『東アジア戦略概観』は、我が国唯一の国立の安全保障シンクタンクである防衛研究所を代表する定期刊行物として、今回で刊行 21 年目を迎えた。日本語版は国内の大学でテキストとして使用され、英語版は海外の学術論文で引用されるなど、東アジアの安全保障問題について日本の研究者が網羅的に分析した稀有な年次報告書として高く評価されている。

本書は、日本の安全保障に影響を及ぼす周辺諸国の動きを定点観測した地域章と、東アジアの安全保障に関わる時宜にかなったテーマを取り上げるトピック章から構成されている。本号においては、トランプ米新政権の不透明な外交政策、深刻化する北朝鮮の核・ミサイル脅威、強まる中国の海洋進出と対応に苦慮する周辺諸国、プーチン大統領の訪日と日露関係正常化に向けた動き、欧州の「複合危機」が東アジアに及ぼす影響、戦略地平の拡大を目指す日本などについて分析した。

編集方針として、文責を担う執筆者の氏名および分析根拠を示す脚注を明示することにより、研究者が独自に分析した学術専門書としての性格をより一層強めた。また、図表や写真、解説記事、略語一覧などを備えることで、東アジアの安全保障に対する一般読者の理解が進むよう配意した。

本書は、2016 年 1 月から 12 月までの 1 年間における安全保障上の重要な事象について、防衛研究所の研究者が内外の公刊資料に依拠して独自の立場から分析・記述したものであり、日本政府あるいは防衛省の見解を示すものではない。また、本書に登場する人物の役職・肩書は、原則として記述する事象が生起した当時のものである。

本書の執筆は、兵頭慎治（序章）、鶴岡路人（第 1 章）、伊豆山真理・栗田真広（第 2 章）、増田雅之（第 3 章）、室岡鉄夫・阿久津博康（第 4 章）、庄司智孝・富川英生（第 5 章）、山添博史・秋本茂樹（第 6 章）、菊地茂雄・新垣拓（第 7 章）、佐竹知彦（第 8 章）が担当した。また、編集

作業は、秋本茂樹、一政祐行、永福誠也、大西健、川村幸城、切通亮、桐山博文、小池修、下平拓哉、高橋一郎、田中極子、山下光が担当した。

世界の戦略的関心が東アジアに集まる中、本書の内容が、東アジアの戦略環境に対する関心と理解を深め、日本がよりよい安全保障政策を追求するための知的議論の材料提供になれば幸甚である。

平成 29 年（2017 年）3 月
防衛研究所 地域研究部長
『東アジア戦略概観 2017』編集長
兵頭慎治